Vinitech-Sifel、圧力にさらされるブドウ畑をテーマに70超の講演を含む2026年プログラムを発表

ボルドーの見本市が12月1日に開幕。出展者500社、実演、多角化をめぐる討論を予定

2026年11月12日（木）



Vinitech-Sifel 2026の開幕まで20日となった11月12日、主催者は見本市の主要な学術・経済・技術プログラムを発表した。会期は12月1日から3日まで、Parc des Expositions de Bordeauxで開催される。

第25回となる今回は、経済的な負担、気候変動への適応、アグロエコロジー、新たな収益源の模索など、ブドウ畑や農業経営を取り巻く状況を大きく変えつつある圧力に焦点を当てる。主催者によると、70を超える講演会、フォーラム、技術ワークショップに加え、500社の出展者や複数の実演企画を通じて、業界全体が一堂に会する。

12月1日の開幕午前には、ワインツーリズムをテーマにした45分間の座談会が行われる。フランスでこの分野がいかに価値を生み、事業の多角化を後押しできるかを話し合う。登壇者として、ジロンド県選出のナタリー・ドラトル上院議員、全国Vignobles & Découvertes連盟のミシェル・シャプティエ、Cité du Vinのソレーヌ・ジャブレ、Deloitteのオリヴィエ・ソーテルが予定されている。

同日後半には、経済的な苦境に直面する業界に開かれた討論の場として、CNAOCの「Grand Direct」が開催される。主催者によると、イベントは2部構成となる。第1部「Recreating Desire」では、ワインと原産地呼称が若い消費者とのつながりを取り戻し、変化する消費傾向に合わせて発信方法をどう見直すかを検討する。討論にはマルタン・キュベールフォン、クリステル・ルプレスル、ジェローム・バウアーの参加が発表されている。

CNAOCの第2部では、フランスの原産地呼称制度が保護として機能しているのか、それとも負担になっているのかを取り上げる。プログラムによると、登壇者は原産地を保護するワインの枠組みを、制約ではなく経済的な手段へと転換する方法を議論する。生産規則の簡素化、多角化、ワインツーリズム、輸出などが議題となる見込みで、ティエボー・ユベール、ラファエル・ファティエ、原産地呼称やワイン生産者団体の代表者が意見を述べる。

12月2日には第4回アグロエコロジー・サミットが開かれる。主催者によると、土壌再生と気候変動への適応に取り組む科学者や技術専門家が集う。登壇者には、生物学者のマルク＝アンドレ・スロッセ、農業気候学者のセルジュ・ザカ、INRAEの研究ディレクターであるセリーヌ・ペロジとリオネル・ランジャール、植物遺伝学者のクリスチャン・ユイグ、アグロフォレストリーの専門家エルベ・コーブが名を連ねる。Maison Martellなど企業の事例紹介も予定されている。

12月2日にはスペインに焦点を当てたセッションも予定されており、会場はホール1、フォーラム3、時間は11時15分から12時15分まで。国際的な研究・開発・イノベーション事業や、その他の持続可能性に関する取り組みを扱う座談会「ブドウ畑とワイナリーにおける持続可能なイノベーション」には、PTVのセルジ・ラモ、INNOVIのエロイ・モンカダ、Regenerative Viticulture Associationのミレイア・トーレスが登壇する。

最終日の12月3日には、午前を多角化に充てる。主催者によると、農地の経済的な活用を高める方法を話し合い、キウイ、オリーブ、ヘンプ、柑橘類、ベリー類などの補完作物について、技術面・財務面での実現可能性を紹介する。

講演プログラムに加え、Vinitech-Sifelは実践型・技能習得型の企画も拡充する。主催者は「Vinitech Games」の名称で4つの競技を発表した。AgroCampus Bordeaux Girondeが企画し、Studio Nyxの没入型技術を活用するバーチャル剪定競技、NAVIプロジェクトが後援するトラクター運転競技、CIVBとUMIH 33の協力によるカクテル競技、そして出展する樽工房のTaransaud、Demptos、Sylvainなどが参加する樽転がし競技で、樽転がしには研修中の学生を対象とする別部門も設けられる。

樽転がし競技では、地元産のブドウ搾りかすを3Dプリントして作ったトロフィーも授与される。主催者によると、賞品は見本市のイノベーション賞で評価を受けた出展者、Metay 3Dが制作する。

もう一つの企画「Wine & Spirit Profiling」では、フランスブドウ・ワイン研究所、フランス醸

造家連合、Enosensが国際的な専門家の協力を得て、比較テイスティングのワークショップを実施する。主催者によると、消費者の習慣の変化、気候に起因する課題、世界各地のテロワールの価値を取り上げる。トーレス家が地球温暖化への対応として先祖伝来のブドウ品種の復活に取り組む事例をミレイア・トーレスが紹介するほか、ハンガリーのDomaine Gálが、カルパティア地方の品種が新たな市場ニーズに応える可能性をテーマにマスタークラスを開く予定だ。

また、屋外に3,000平方メートルの「Techno Show」エリアを設け、農業関係者が実際の稼働環境で農業機械、自律走行ロボット、その他の農業技術機器を見学し、試用できるようにする。

主催者によると、2026年のプログラムはIFV、INRAE、ISVV、農業会議所、Inno’Vinなど、20を超える機関・学術パートナーとともに策定された。Vinitech-SifelはBeamが主催する。Bordeaux Events and More（BEAM）は、ボルドーのイベント・ビジネスツーリズム市場で1世紀以上にわたり事業を展開している。